

## 平成28年度事業計画書(H28.4.1～H29.3.31)

平成27年度はWorld Osteoporosis Dayをより周知させる活動に重点を置き、従来の市民公開講座の開催とWODリーフレット・ポスターに加え、プレスセミナーの開催やピンバッジの制作と配布等を行いました。また、普及啓発事業を補完するために①実態調査ワーキンググループ②普及と啓発ワーキンググループ③骨粗鬆症患者の会ワーキンググループの3つを立ち上げ、28年度からの事業変革に備えています。

骨粗鬆症診療は新時代を迎えたといっても過言ではありません。

日本骨粗鬆症学会では骨粗鬆症認定医制度や骨粗鬆症マネージャー<sup>®</sup>資格を開始し骨粗鬆症診療の基盤が強化されるだけでなく、骨粗鬆症治療薬についても、近年優れた骨折抑制効果を示す様々な薬剤が承認されています。

こうした背景のもと、平成28年度は以下の点を重視し普及啓発活動に注力してまいります。

1. 多様なターゲットに対し、より効果的なアプローチを行う
2. 既存活動の見直しを行うとともに有用な新規の活動を立ち上げる

普及啓発活動は一般生活者や患者に加え、医療関係者や行政に対する働きかけも欠かせません。検診～診療の道筋をしっかりと作るためにも、多様なターゲットに対し、適切な方法で情報発信を拡大していきます。また、限られた資源を有効に使用するため既存事業を見直す一方で、より有用な新規活動の立ち上げや資源の再配分を行います。

### 【公益目的事業】

#### (1) 普及・啓発事業

##### イ) 骨粗鬆症に関する資材・資料の作成と配布

- ・既存の資材： 従来通り、ホームページの請求フォームにて受付、原則無料配布
- ・新規の資材： 普及と啓発ワーキンググループにて検討(将来的に、一般のみならずプライマリケア医が使用できる資材として販売も目指す)
- ・世界骨粗鬆症デー・キャンペーン ポスター&リーフレットの作成・配布

⇒関係者への告知を行うとともに、関連企業HP等から財団HPへのリンク等を働きかけ、財団啓発資材を広く認知させる

##### ロ) ホームページの運営・更新作業

- ・一般向け、医療従事者向けページ共にコンテンツをより充実させる
- ・魅力あるHPに仕上げて閲覧数を増やし、バナー広告掲載を促す
- ※今後は資材と同様、普及と啓発ワーキンググループにて検討し、情報更新を行っていく
- ・『病医院リスト』に更に多くの施設を掲載、利便性を改善する
- ・『検診』に自治体アンケートの結果報告や成功例などのVTRを掲載
- ・『Q&Aコーナー』の見直しと追加訂正
- ・Facebookを開設

ホームページに掲載しない流動的な内容や告知などFacebookを介した情報発信を開始  
Facebookの特性である拡散性の強さを活かせるようなプロモーションを並行して行う

#### ハ) 世界骨粗鬆症デー(WOD)キャンペーン

IOFが展開するWorld Osteoporosis Dayキャンペーンに同調し、IOFが発信するメッセージや資材を活用する。(28年度の統一テーマは“staying strong and mobile as we age”となる予定)

##### ・プレスセミナー

9月下旬～10月上旬に報道関係者向けセミナーを開催し、骨粗鬆症デーの情報発信を行う

##### ・広報活動

首都圏の女性専用車両にて一斉広告を行う

Tシャツを制作しウォークラリーを行う

##### ・WODポスター及びリーフレットの制作と配布

「10月20日は世界骨粗鬆症デー」「IOF統一テーマ(日本語版)」の2種のリーフレットおよびポスターを制作し配布する。自治体の検診担当部署や健康日本21連絡協議会、全国の病医院等へ配布

##### ・市民公開講座の開催

市民公開講座2016「ご存知ですか？骨の健康(仮)」

10月2日(日) KFCホール(両国)

#### ニ) 骨量測定拡大キャンペーン

・検診が活用されている自治体について、全国の自治体検診担当者の参考となるよう、骨粗鬆症検診事例紹介にて成功自治体例を取り上げ、コンテンツを作成し、ホームページに掲載

・メール配信等で、自治体の検診担当者に視聴を促す

#### ホ) 地域骨を守る会の支援・連携の拡大

・各地域の骨を守る会に対し助成

全国各地の「骨を守る会」によって実施されている骨粗鬆症の市民啓発活動を更に推し進めるため、財団から「骨を守る会」に対する資金助成を実施する

・第6回全国骨を守る会連合会 開催(平成29年2月)

・空白となっている東北、中国、四国、九州地区において関連の先生に打診を行い、新組織化を図る

各ブロックに一つの骨を守る会設立を目標とする

東北: 東北大関連で打診中

四国: 検討中

九州: 検討中

#### ヘ) 財団ニュースの発行

・年2回発行(7月、1月)を継続するが、印刷媒体ではなくPDFファイル化し、eメールにて配信することを検討。メール配信の場合は、年2回にこだわらず、情報発信をおこなう。

#### ト) 教育ゼミナールの開催

・年2回開催(第66回、67回)

第66回: 7月1日(金) AP東京八重洲通り

①「糖尿病に合併する骨粗鬆症の特徴と対策について」

島根大学医学部内科学講座 内科学第一 金沢 一平 先生

②「骨粗鬆症とCKD－CKDにおける骨粗鬆症薬の使い方」

大阪大学大学院医学系研究科 腎疾患統合医療学 濱野 高行 先生

第67回：11月予定

- ・受講者を増やすため、受講対象者を広げた講演を企画する
  - ⇒ 関心度の高い講師とテーマを選定する
  - ⇒ 骨粗鬆症マネージャーを講師に招く、もしくは骨粗鬆症マネージャー対象講座などを開催
- ・講演記録集の発行(第64回、第65回)

チ)骨量測定法講習会「精度よくDXAで骨量測定するための講習会」

当初の目標であった受講率25%をクリアした。

(※受講率＝受講した施設数／Central DXAを保有する施設数)

- ・講習の内容を動画コンテンツとして作成し、eラーニング化もしくはDVD化して提供。もしくは骨量測定機器会社が行う放射線技師対象のビデオ講習会資料として提供する。
- ・毎開催時に行っていた受講者アンケートを基に追加の解説集を作成
  - (1)DXA腰椎・大腿骨について講習会で触れなかった事項(小児、腰椎側面、腰椎、退行性変化の著明例、金属プレートなどの存在例など)
  - (2)他の測定部位や他の測定法についての事項(前腕骨、全身骨、QUS)
  - (3)その他の事項(TBS、疾患別や治療経過のBMD、BMDの機種別換算式など)

リ)電話、E-mail、ホームページから寄せられる相談・質問等への対応

又)『Osteoporosis Japan PLUS』(ライフサイエンス出版発行の季刊誌)

- ・編集の協力(編集委員会への参加、内容の監修など)

ル)「骨粗しょう症友の会」の立ち上げ

- ・友の会の実施について医療機関(約2,000ヶ所)に対しアンケートを行った結果を基に、骨粗鬆症患者の会ワーキンググループにて更に内容を検討
- ・友の会案内パンフレット、掲示用ポスター等、必要な印刷物の編集・制作
- ・不特定多数の一般人を読者対象とする情報誌の発行
- ・友の会告知活動

ヲ)顎骨壊死等、治療上の脅威に対するシンポジウムの企画

薬物の副作用を懸念して、歯科医が歯科診療を行わなかったり、診療に従事する医師が治療を中断したりするケースがあり、患者へしわ寄せが集まっている現状がある。国内のアンケート調査などを含め、最新の情報を医師や歯科医へ伝えるシンポジウムを開催する。

## (2) 研究助成事業

・以下イ)～ハ)の3つの助成について、募集・選考・助成金交付を実施する。助成者の研究報告書は成果物として報告書を作成、研究者や骨領域関連団体等に配布。同時に、全文をホームページで掲載。

### イ) 財団研究助成

・第24回(平成28年度)の助成交付(平成27年11月～12月募集分)

・第25回(平成29年度)(研究期間:平成29年4月～平成30年3月)

・募集課題/件数

【一般課題】5題(60万円) 骨粗鬆症に関する基礎・臨床研究及び調査

【指定課題】3題(総額300万円) 28年度の指定課題のテーマは理事会で決定する

・募集:平成28年11月1日～12月の最終営業日

・選考委員:井上大輔、岩本 潤、竹田 秀、寺内公一先生

ロ) 第13回リリー研究助成プログラム(臨床)(研究期間:平成29年1月～12月)

・10題の選定(80万円)

・募集:平成28年7月～8月

・選考委員:井上哲郎、堂地 勉、松本俊夫、藤原佐枝子先生

ハ) 第10回旭化成研究助成プログラム(臨床+QOL)(研究期間:平成29年4月～平成30年3月)

・8題の選定(50万円)

・募集:平成28年9月～10月

・選考委員:林 泰史、太田博明、細井孝之先生

・研究助成事業に対する寄附を募集

・応募要項に以下を追加し、報告者に義務付ける

「助成を受けた研究は、学術誌(ジャーナル)等に投稿することを原則とする。

なお、公表時には当財団の助成を受けた旨を付記し、公表された論文等の写しを財団へ送付する」

## (3) 調査・研究事業

### イ) 骨粗鬆症診療実態調査

「骨粗鬆症実態調査ワーキンググループ」にて検討

電子レセプト調査による骨粗鬆症診療実態調査が進行中。電子レセプト調査によるノウハウを集積し、National Data Base 調査へと発展させたい。また他の実態調査も検討する。

・電子レセプト調査

北海道の電子レセプト調査結果を学会発表および論文化する

広島県の医科&介護データの解析を進める

・National Data Base 調査

NDBの解析方法検討と申請を行う

全国レベルの骨折数等を継続把握していく

・他の調査

プライマリケア医での実態調査等を検討する

ロ) 骨粗鬆症治療薬の服用に関するアンケート調査(HAPPINESS-J Study)

経ロピスホスホネート製剤を服用する患者と主治医へのアンケート調査と解析は終了し、以下を論文化する。(結果はHPでも公表)

- ・服薬に関する課題(萩野 浩先生)
- ・新規骨折に関する課題(竹内 靖博先生)
- ・ロコモ等、身体機能(ADL)に関する課題(田中 栄先生)
- ・男性骨粗鬆症(岡崎 亮先生)

ハ) 「大腿骨近位部骨折全国調査」の活用

Osteoporosis Internationalにpublished online(オープンアクセス化)

(4) 情報収集 & 国際交流

イ) IOF関連

- ・情報交換と連携の強化を行う
- ・WGO-IOF-ESCEO MALAGA 2016: 4月14日～17日 マラガ(スペイン)  
折茂理事長: IOF Board Meeting(4/13)、CNS会議(4/13)、ポスター発表(4/16)
- ・IOF Regionals 6th Asia-Pacific Osteoporosis Meeting 2016でのブース出展  
日時: 11月4日～6日  
場所: サンテック・シンガポール国際会議展示場

ロ) 行政情報収集 & ロビー活動

- ・健康局 がん対策・健康増進課への協力要請
- ・WODポスターや市民公開講座の後援を依頼、検診の推進連携を依頼

ハ) 健康日本21推進全国連絡協議会との情報交換

二) 関連団体等との情報交換 & 連携強化

- ・特に日本骨粗鬆症学会との連携  
(例: 関連学会への「骨粗鬆症財団ブース」出展 等)
- ・賛助会員の会合  
4月に開催予定、財団の事業説明を行うとともに、普及啓発活動への協力を要請する

【収益事業等】

イ) 著作権関連事業

「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン」をはじめ、財団資料・ホームページなど、骨粗鬆症財団が有する著作権の譲渡又は提供

【その他】

- ・個人賛助会員：個人での寄附の受付を拡大（財団は個人向け税額控除適用事業所であり、小口の寄附支出者の減税効果が高いことをアピールする）
- ・理事／評議員の改選（現任期：6月の評議員会開催まで）
- ・理事会、評議員会におけるWEB回線を介した会議の検討
- ・理事会の運営方法の検討